

現状と課題

- 小・中・高の学習指導要領でも「ボランティア活動」が位置づけられるなど、子どもの福祉に関する関心をいかに高めていくかは、社会的な重要な課題となっています。
- 東社協では、東京ボランティア・市民活動センターの夏体験ボランティア、教員向け講座などを通じて子どもに対する福祉への理解を推進していますが、福祉参加のきっかけとなる情報支援は、依然として取組みが不十分な状況となっています。
- また、東社協では「福祉広報」「ネットワーク」「ホームページ」「メールマガジン」や出版活動を通じた情報発信を行っており、福祉に「関心のある方々」への情報提供は一定の成果を挙げています。しかしながら、「少し関心がある」「きっかけがあれば関心もてる」といった都民に広く情報を届ける観点では、その取組みは十分とはいえず、新たなアプローチが求められています。
- さらに、都内にはさまざまな区市町村社協、施設、活動団体の実践があり、その中から先駆的な取組みや社会的に価値のある取組みを収集し、都民への周知を促進していく努力も必要とされています。

事業のねらい

新たな福祉参加を広く都民に働きかけるべく、福祉について学び、考えるきっかけづくりを以下により推進します。

- (1) 子ども向けにわかりやすい表現をもちいた福祉情報の発信をめざします。
- (2) 東社協に集まる多様な情報を一元化して情報提供する仕組みづくりをめざします。
- (3) 市民の立場からの福祉情報の発信を行ない、福祉活動への市民の理解を広げることをめざします。

実施すべき具体的な事業

◆子ども向けホームページの作成

子どもに関わるNPOや教育関係者等と協働し、東社協ホームページに「子ども向けホームページ」を作成し、子どもが福祉を楽しく一体的に学べるサイトを作ります。

<構成内容>

- ① 子ども福祉ニュースの定期的な発行
子どもたち自身によりホームページに掲載する福祉ニュースを編集し、地域の諸課題や福祉問題をわかりやすく解説します。
- ② 福祉クイズ等の作成
地域の課題を考えるきっかけづくりのために、楽しく学べるツールを開発します。
- ③ 当事者や活動者、地域の諸課題の紹介
支援を必要とする人々やそれを支えるさまざまな人がいることを紹介します。

◆東社協におけるプレス発表の仕組みづくり

東社協が取り組む調査研究や提言、区市町村社協や福祉施設、NPOの新たな取組みの情報集約体制を確立し、定期的なマスコミへの情報提供のしくみを構築します。

◆福祉情報・市民記者（仮称）による市民感覚を活かした情報発信の仕組みづくり

市民の立場や視点から福祉の問題を取り上げて発信する仕組みとして、「福祉情報・市民記者（仮称）」を公募し、「福祉広報【特別号】」などにより市民感覚の情報発信を行なっていきます。

年次計画

22年度	23年度	24年度
○子ども向けホームページコンテンツの作成	○子ども向けホームページの開設	→
○プレス発表の仕組みづくりと情報集約の体制整備	○プレス発表の充実強化	→
○福祉情報・市民記者の公募	○福祉情報・市民記者（第1期）の活動（23～24年度）	

事業の概況

図1 ●子ども向けホームページの作成

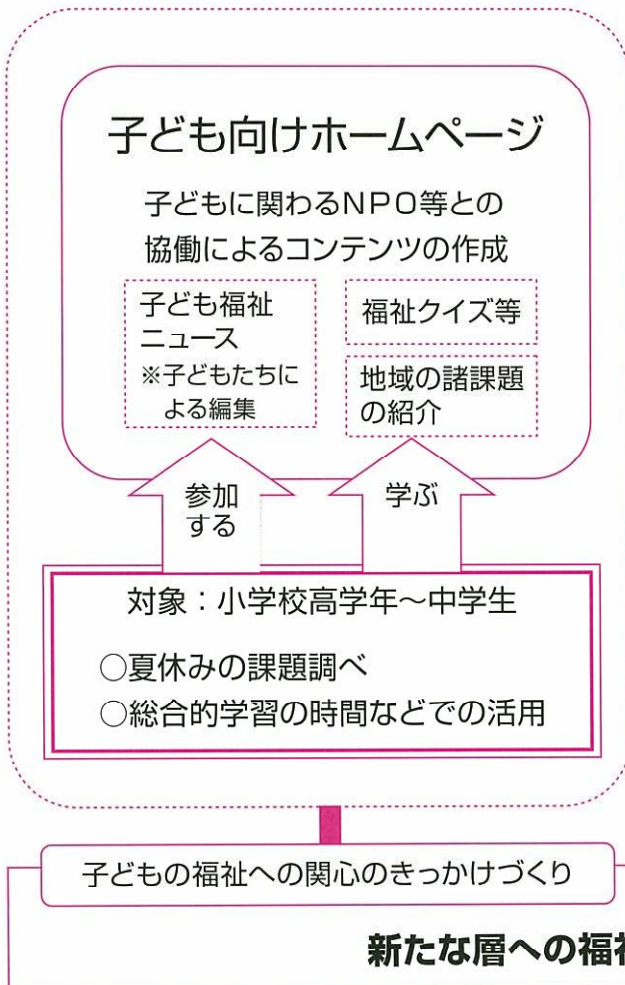
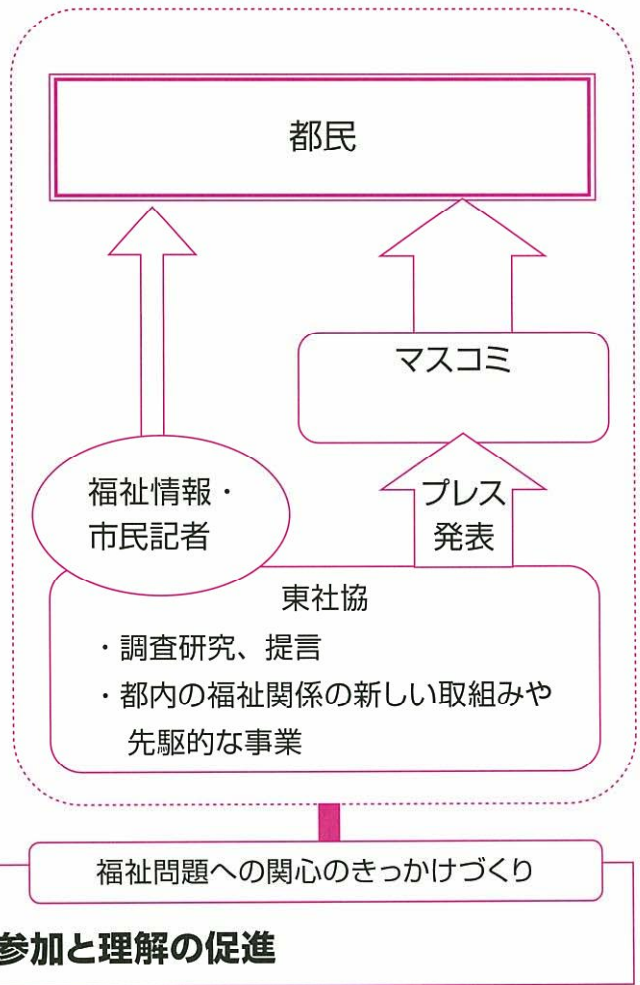


図2 ●広報活動の充実強化



新たな層への福祉参加と理解の促進

I 社会的に広く取り組む課題への対応

II 福祉人材の定着・育成の取り組み

III 地域における諸課題への対応

IV 市民の福祉参加と理解の促進

V 部会及び連絡会活動の充実と強化